



平成23年11月2日

救急搬送データからみる日常生活事故

～ 知って防ごう日常生活事故！ ～

東京消防庁管内^{※1}では、平成18年から平成22年までの5年間に、日常生活における事故^{※2}により539,136人が救急搬送されています。これは約5分に1人の割合で救急搬送されていることとなります。

東京消防庁では、繰り返し発生し、一向に減ることがない日常生活事故を分析し報告書をまとめました。報告書では事故全体の傾向と事故種別ごとに「いつ・どこで・誰が・何で」受傷しているのかや、事象事例や事故防止のポイントをあげています。事故を他人事と思わず、一人でも多くの方が身近にひそむ事故の危険性を知り、日々の生活のなかで対策をとってもらおうよう、呼びかけを行うとともに、本報告書の全文を東京消防庁のホームページに掲載します。

また、平成23年11月9日（水）からフリーダイヤル及び電子メールで本報告書に関するお問合せや日常生活事故防止のご相談を受け付けます。

（フリーダイヤル及びメールアドレスの開設期間にあつては平成23年11月9日（水）から平成23年12月9日（金）までとなります。）

※1 東京都のうち東久留米市、稲城市、島しょ地区を除く地域（東久留米市は平成22年4月1日より東京消防庁管内となった。）

※2 平成18年から平成22年までの過去5年間の都民生活事故情報データを使用したもの。

日常生活事故の特徴

- 1 平成18年から平成22年までの5年間に539,136人が救急搬送されており、約5分に1人の割合で救急搬送されています。
 - 2 事故発生場所では、住宅等居住場所が最も多く267,251人で救急搬送人員の約半数が一番身近な部屋の中で受傷し救急搬送されています。
 - 3 年齢別の救急搬送人員をみると1歳児が最も多くなっています。また60歳以上でも多くなっています。人口百人あたりの救急搬送人員でも5歳以下と60歳以上が高い割合を示しており、特に70歳位を超えてくると急激に上がっています。
 - 4 初診時程度をみると、軽症が約7割となっていますが、4人に1人は入院の必要がある中等症以上と診断されています。
- 詳細は、添付資料をご覧ください。

東京消防庁では、今後も同様の救急事故の発生状況を注視し、注意を促すなど、都民の安全確保に努めてまいります。

問合せ先

東京消防庁（代） 電話 3212 - 2111
防災安全課防災安全係 内線 4207
広報課報道係 内線 2345～2349

《救急搬送データからみる日常生活事故》

～ 知って防ごう日常生活事故 ～

東京消防庁

東京消防庁管内¹⁾では日常生活を送るなかで年間約11万人がさまざまなけがをしています。そこで東京消防庁では、繰り返し発生し、一向に減ることがない日常生活事故の防止のために、平成18年から平成22年の5年間に日常生活事故²⁾により救急搬送された539,136人の事故状況を分析し報告書としてまとめました。

また、本報告書に関するお問合せや日常生活事故防止のご相談に対するフリーダイヤル受付とメール受付を開始します。

日常生活の事故に関するご相談は・・・



- ・開設期間 平成23年11月9日(水)から12月9日(金)まで
- ・利用時間 平日の午前8時30分から午後17時00分まで
- ・東京都内からおかけの場合に、ご利用いただけます。
- ・IP電話(050番号)などからは、ご利用いただけません。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。

日常生活の事故に関するご相談は・・・



seikatsuanzen@tfd.metro.tokyo.jp

- ・開設期間 平成23年11月9日(水)から12月9日(金)まで
- ・24時間受け付けておりますが、回答は翌日以降となります。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。

1 日常生活事故の全体像

- 1 平成18年から平成22年までの5年間に539,136人が日常生活での事故により救急搬送されており、約5分に1人の割合で救急搬送されています。
- 2 年別救急搬送人員では、各年約11万人前後を推移しており**減少傾向がみられません**。
- 3 事故発生場所別にみると**住宅等居住場所での事故**が全体の約半数を占めています。
- 4 日常生活での事故では**5歳以下と60歳以上**の年齢層に多く発生しています。
- 5 初診時程度をみると、軽症が約7割となっておりますが、**4人に1人は入院の必要がある中等症以上と診断**されています。
- 6 事故種別ごとにみると、**転倒や転落・墜落**が受傷原因の大半を占めています。
- 7 年齢層ごとに受傷事故の特徴があります。

2 年別発生状況

日常生活事故で年間約11万人が救急搬送されています。これは約5分に1人が救急搬送されていることとなります(図1)。

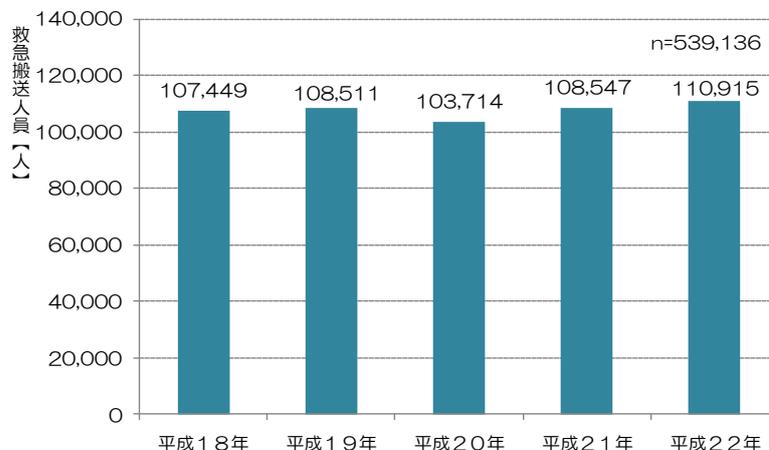


図1：年別の救急搬送人員

1) 東京都のうち東久留米市、稲城市、島しょ地区を除く地域(東久留米市は平成22年4月1日より東京消防庁管内となった。)

2) 運動競技、自然災害、水難事故、労働災害事故または一般負傷に該当するもの。

3 場所別救急搬送人員

場所別にみると、住宅等居住場所が最も多く267,251人で約50%となっており、次いで道路・交通施設151,056人で28%となっています。最も身近な場所である部屋の中で事故が多く発生しています(図2)。

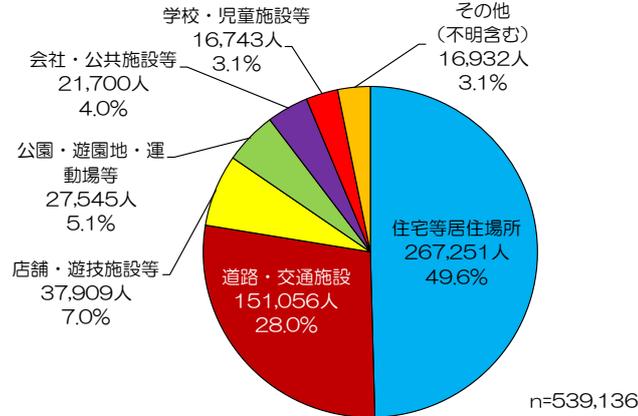


図2：場所別救急搬送人員

4 年齢別救急搬送人員

年齢別にみると、1歳が最も多く救急搬送されています。また60歳以上の年齢でも多く救急搬送されていることがわかります。さらに人口百人当たりの救急搬送人員を見ると1歳と60歳以上が高くなっており、特に70歳を超えたあたりから急激に高くなっています(図3)。

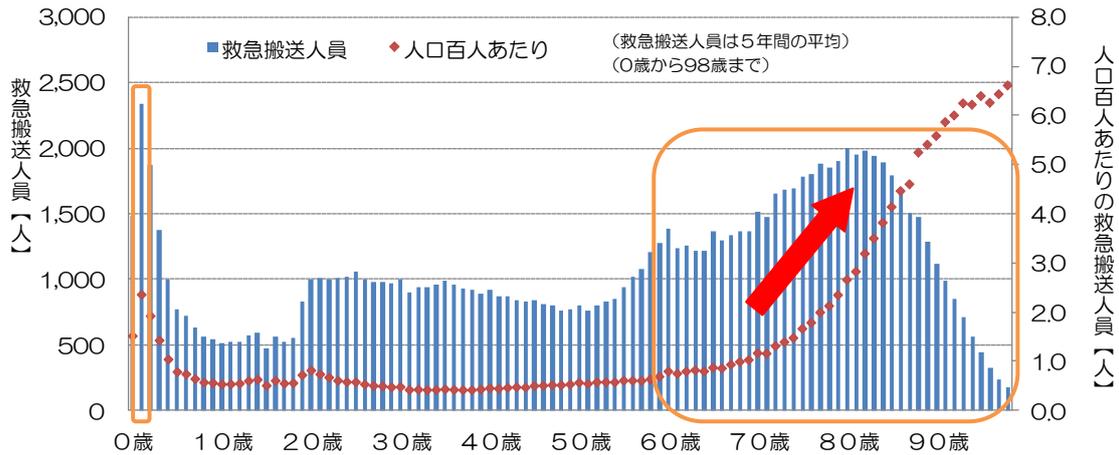


図3：年齢別救急搬送人員および人口百人当たりの救急搬送人員

5 初診時程度別割合

日常生活での事故では、軽症と診断された人が約7割と大半を占めていますが、約4人に1人が入院を必要とする中等症以上の診断を受けています(図4)。

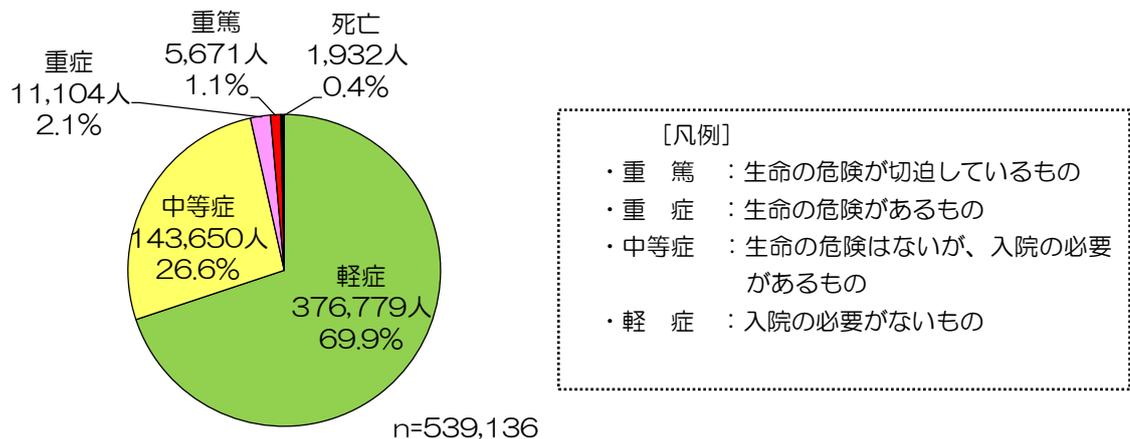


図4：初診時程度別割合

6 年齢層別事故種別ごとの構成割合

すべての年齢層において、「ころぶ」と「おちる」が高い割合を占めています。特に60歳くらいからはころぶが60%を超えています（図5）。

また「ころぶ」と「おちる」以外の事故を100%とした場合には、0から4歳では「ものがつまる・ものが入る」と「やけど」が高い割合となっています。5から19歳くらいまでは「ぶつかる」事故がほかの年齢層にくらべて高い割合をしめています。20歳から65歳くらいまででは「切る・刺さる」と「はさまれる」が多いことがわかります。高齢者は「ものがつまる・ものが入る」と「おぼれ」が突出しています（図6）。

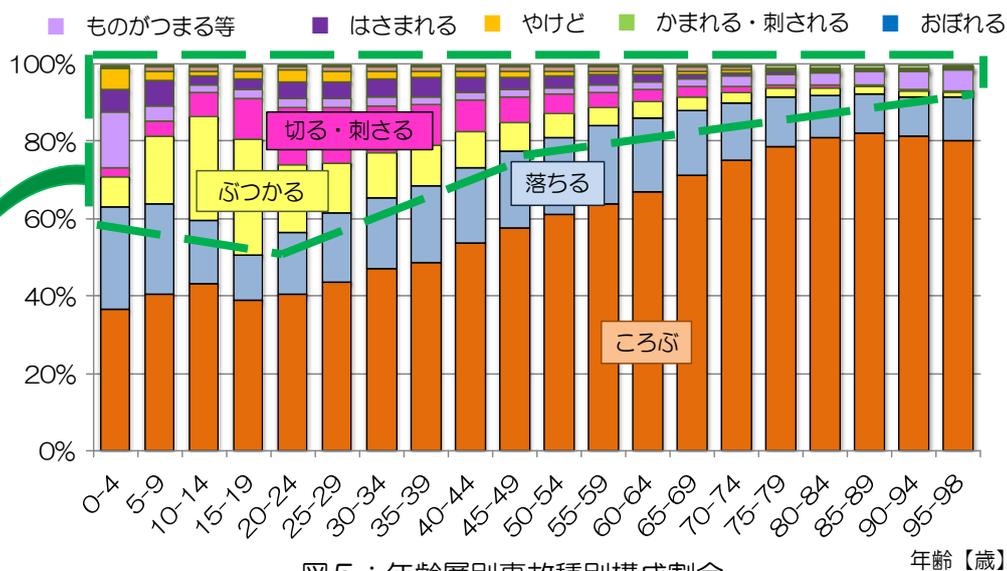


図5：年齢層別事故種別構成割合

年齢【歳】

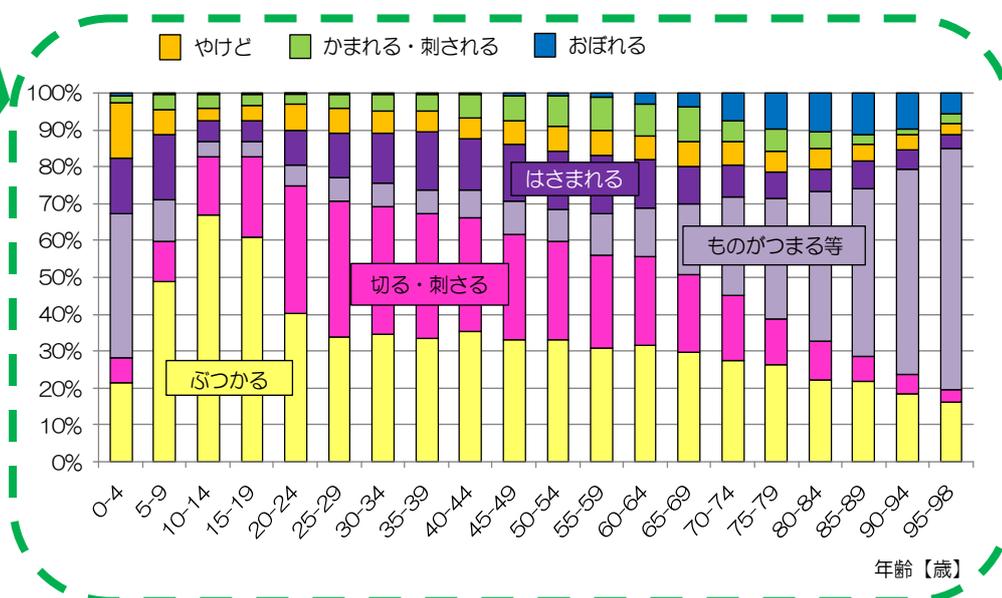
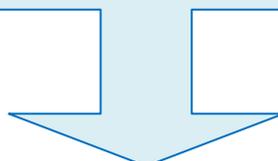


図6：年齢層別事故種別構成割合
（「ころぶ」と「おちる」を除いた事故）

日常生活での事故を防ぐためには・・・



事故を知り、対策をたてる!

そこで東京消防庁では、繰り返し発生し、一向に減ることがない日常生活事故の防止のために、539,136人の事故状況を分析し報告書をまとめました。報告書では事故種別ごとに「いつ・どこで・誰が・何で」受傷しているのかや、事故事例や事故防止のポイントをあげています。

救急搬送データからみる日常生活の事故の掲載内容紹介

もくじ

この本の見かた..... P.1

第1部 日常生活の事故はどれくらい起きている？..... P.2

1 日常生活の事故の全体像..... P.2

2 増える高齢者の事故..... P.6

第2部 しっかり知って、しっかり予防！事故の種類ごとの分析..... P.10

1 最も多い事故「ころぶ」..... P.10

2 次いで多く、大変危険な「落ちる」..... P.14

3 若い人にも多い事故「ぶつかる」..... P.20

4 出血がともなうことが多い「切る、刺さる」..... P.24

5 見ができない、目が痛い.....

「ものが詰まる、ものが入る、誤って飲み込む」..... P.30

6 いたい！とれない！「はさまれる」..... P.36

7 小さな子どもは特に注意「やけど」..... P.42

8 いつともわいバットにも「かまれる・刺される」..... P.46

9 海で、川で、お風呂で「おぼれる」..... P.52

第3部 ピックアップ！特に知ってほしい事故・火災.....

1 毎年出火原因の上位に「火遊び」..... P.58

2 お年寄りには特に注意してほしい「住宅火災」..... P.62

3 一般化酸素・塩素ガスなどの「ガスによる事故」..... P.66

日常生活の事故の全体像

日常生活の事故全体の約44%を占める高齢者の事故をピックアップ

9種類の事故ごとの細かい分析

(「ころぶ」「おちる」「ぶつかる」「切る・刺さる」「ものが詰まる」「はさまれる」「やけど」「かまれる」「おぼれる」)に分類

さらに、特に知ってほしい事故として5つの事故を掲載。

- 1 エスカレーターの事故
- 2 子どもの歯ブラシによる事故
- 3 電車の扉にはさまれる事故
- 4 モチがのどにつまる事故
- 5 ハチに刺される事故

危険な事故や火災をピックアップ

例) 第2部 ころぶ

ころぶ

この事故は全ての事故の種類の中で最も多いんだ。年々増える7,000人の人が救急搬送で運ばれているよ。特にお年寄りに多く起きているんだ...

1 事故の発生状況

事故の発生状況は？

この事故は、すべての事故の中で最も多く、年間約7,000人の人が救急搬送されています。(図2-1)

図2-1 年別

年、月、時間ごとの発生状況

事故はいつ発生しているの？

季節に異ならず発生していますが、12月は特に多くなっています。秋の季節が増えることが原因の一つにあげられます。(図2-2)

図2-2 季節別

事故発生場所や年齢性別ごとの救急搬送人員、事故に至った要因

事故はどこで発生しているの？

住宅内で多く発生しており、全体の約7割を占めています。次いで多いのは公共施設です。(図2-3)

図2-3 場所別

時間別におとすのは、9時から17時が多くなっています。特に高齢者には、夕方2時以降に多い傾向が続いています。(図2-4)

図2-4 時間別

事故による初診時程度の割合や具体的な事故事例

どれくらいの事故

約7割は軽傷で済むと診断される人もいます。また、この事故は多くは怪我だけでなく、骨折や頭部損傷など、重傷を負う人もいます。(図2-5)

図2-5 救急搬送後の初診時程度

2 主な事故

多い事故は？

階段を歩行中に足が滑って転倒し、頭部を打つ事故や、トイレに行く途中に浴室の床に滑って転倒し、頭部を打つ事故が高齢者に多く発生しています。(図2-6)

図2-6 転倒の原因別

3 事故防止のポイント

目ざから部屋を整理整頓を心がける。

部屋の整理整頓をすることで、家具や物によるつまづきを防止し、ころんだ際に物とぶつかる事故を減らすことができます。

立ち上がる時はゆっくりと。

ベッドから起き上がる時、夜中に起き立つ時など、姿勢を変えた時に気を配り、ゆっくりと立ち上がるように心がけてください。

分りやすい事故防止のポイント

自転車のヘルメットを必ず着用してください。

ヘルメットを必ず着用してください。

高齢者にはつねにそれを心がけてほしい。(図2-7)

この事故は、日常生活の事故の中で、最も多い事故です。また、高齢になると、歩行が不安定になる傾向があります。特に住宅内で転倒事故が多いため、目ざから部屋を整理整頓を心がけてください。

データからみる日常生活事故に関するお問合せやご相談は・・・

日常生活の事故に関するご相談は・・・



0120-286-119

- ・開設期間 平成23年11月9日（水）から12月9日（金）まで
- ・利用時間 平日の午前8時30分から午後17時00分まで
- ・東京都内からおかけの場合に、ご利用いただけます。
- ・IP電話（050番号）などからは、ご利用いただけません。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。

日常生活の事故に関するご相談は・・・



seikatsuanzen@tfd.metro.tokyo.jp

- ・開設期間 平成23年11月9日（水）から12月9日（金）まで
- ・24時間受け付けておりますが、回答は翌日以降となります。
- ・日常生活の事故に関する内容以外は、ご回答できません。

「病院へ行った方がいいのかな？」
「救急車を呼んだ方がいいのかな？」 **迷ったら**

東京消防庁救急相談センター 24時間対応
年中無休

#7119

つながらない場合は...

23区 03(3212)2323
多摩地区 042(521)2323

東京消防庁 東京都医師会 東京都福祉保健局